

## 前回の審議会からの検討経過

### 1. 前回の審議会（平成31年3月）での主な議論

- これまでのワークショップでは小学校区を中心に議論を進めてきたが、これからは小学校と中学校の組み合わせをどうするかも考えていく必要がある。また、船場地域の新設校が小中一貫校かどうかまだ決定していないので、それも次年度の大きな課題である。
- 全市民が満足する校区にすることは難しいが、少しでも納得感を高めるために、議論の経過をできる限り多くの市民に知ってもらうことが必要。広報紙などで広く知らせたり、校区あるいは団体ごとでの意見聴取など手法は様々あろうが、考えてもらいたい。

### 2. 前回の審議会からの主な取り組み

- 令和元年6月……広報紙もみじだよりに、ワークショップの開催状況等について掲載（特集ページ：全面記事）
- 令和元年6～7月…市内3か所で地域説明会を開催（参加人数約60人）
- 令和元年10月……教育委員会定例会において、本市の小中一貫教育の課題について議論
- 令和元年11月……総合教育会議において、小中一貫教育の今後の方向性について市長との意見交換
- 令和元年11月……教育長及び教育委員との協議及び教育委員会定例会において、小中一貫教育のさらなる推進に向けた方針について議論
- 令和元年12月……教育長及び教育委員との協議において、以下の理由により新設校は小学校が望ましいことについて確認

- ・新設する学校が小中一貫校、小学校いずれの場合であっても、そこで実施する小中一貫教育の内容に質的な違いは生じない。
- ・新設する学校が小中一貫校、小学校いずれの場合であっても、長期的な視点でみて安定的な通学区域とすることができる。
- ・新設する学校を小中一貫校とした場合、第五中学校との併存が困難。
- ・新設する学校を小中一貫校とした場合、隣接する第二中学校区において、4つの小学校と1つの中学校が設置される状況が生じ、市内の校区連携型小中一貫教育の体制の差が大きくなりすぎる。

- 令和元年12月……第7回箕面市通学区域検討ワークショップ
  - ・新設校を小学校とする方向性について説明。
  - ・校区見直し案について議論。その際、ワークショップ以外からも広く意見を聞くべきとの意見あり。
- 令和2年1月……教育委員会定例会において、船場地域に設置する学校を小学校とすることを決定
- 令和2年1月……地域報告会を市内6か所（彩都の丘学園、とどろみの森学園を除く中学校区単位）で開催（参加人数約110人）
- 令和2年2月……第8回箕面市通学区域検討ワークショップ

※その他、随時出張説明会を開催（参加人数約220人）

※令和2年第1回箕面市議会定例会において、（仮称）箕面市立船場小学校を規定するため、箕面市立小・中学校設置条例の改正を提案

### 3. 第8回ワークショップ（令和2年2月6日）での議論

- 令和2年1月の地域報告会等での意見を踏まえ議論。多くの小学校区において見直し案が固まったが、一部の小学校区では決めかねるところもあったことから、追加で第9回ワークショップを開催することとなった。
- 第8回ワークショップでの意見を反映させた小学校区の見直し案は資料2、意見の詳細は資料3のとおり。

※参考資料…第8回箕面市通学区域検討ワークショップ資料

以上